

丹波医療センター 公的医療機関等2025プラン

令和3年1月 策定

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・急性期から回復期までの幅広い医療の提供
丹波圏域の中核病院として、がん、急性心筋梗塞、脳卒中などの高度専門医療を提供するとともに、機能別の病床（急性期病床、回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床、緩和ケア病床）を配置し、急性期から回復期までの幅広い医療を提供する。
また、兵庫医科大学ささやま医療センターをはじめとする地域の医療機関との連携を図り、地域住民が安心して丹波圏域で医療を受けられるようにするための拠点としての役割を果たす。
- ・ハイブリッド施設群による地域包括ケアの実現
丹波市が病院に隣接して整備した、診療所機能、予防医療（健診）機能、在宅療養・介護支援機能を有する保健福祉施設と病院をハイブリッド施設群として一体的に運営し、急性期から在宅支援を含む福祉・保健分野まで、切れ目のないサービスを提供することにより、丹波市の地域包括ケアシステムの中核的役割を果たす。
- ・救急拠点施設としての医療の提供
丹波圏域の救急拠点施設として、脳卒中や心筋梗塞等の重症救急患者に対応する。
- ・地域医療にかかる人材の育成
神戸大学等との連携により、地域医療を担う人材の育成拠点としてふさわしい充実した指導体制、研修環境を確立し、医学生、研修医、専門医を目指す若手医師等の多様なキャリア形成が可能となるよう、質の高い教育・研修を行う。

② 今後持つべき病床機能

- ・機能別の病床を配置し、急性期から回復期までの幅広い医療を提供する。
- ・ICU等集中治療室を設置し、急性期患者に対応する。
- ・回復期リハビリテーション病床及び地域包括ケア病床を設置し、回復期に対応する。
- ・第二種感染症指定医療機関として、感染症病床を設置し、二類感染症患者等に対応する。

③ その他見直すべき点

ア 救急医療

- ・救急専門医の増員を図り、救急受入体制を強化する。
- ・3次的救急機能病院として、脳血管疾患や循環器疾患、外傷などの重症救急患者に対応するため、高度の診療機能を備えた受入体制を構築する。

イ がん医療

- ・地域がん診療連携拠点病院として、病態に応じた手術、放射線治療、化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を実施する。
- ・診療需要の増加に対応するため、外来化学療法の充実を図る。

ウ 脳疾患

- ・新たに常勤の脳神経外科医・神経内科医を確保し、急性期医療・回復期医療を担う。
- ・地域包括ケア病床に加え、回復期リハビリテーション病床を設置し、回復期に対応する。

エ 心疾患

- ・ICU等集中治療室で急性期患者に対応するとともに、回復期リハビリテーション病床を設置し、回復期にも対応する。
- ・循環器内科の診療体制や救急患者搬送体制の充実を図るとともに、外科的治療が必要な場合は、神戸大学附属病院等との連携体制のもとに対応する。

オ 糖尿病

- ・専門医を確保し、糖尿病に対する専門治療を行う。
- ・予防等については、関連施設（市センター）との連携を推進する。

カ 小児・周産期医療

- ・2次小児救急医療機関として、入院手術等を必要とする重症小児救急に対応する
- ・地域小児医療センターとして、24時間365日、小児の救急入院医療に対応する。
- ・地域における周産期医療施設との連携・調整を図りながら、周産期に関する高度（2次）医療の提供を行う。

キ 感染症への対応

- ・第二種感染症指定医療機関として、二類感染症、新型インフルエンザ等の感染症患者に対応する。

ク 血液浄化療法

- ・丹波圏域の中核病院として、透析患者の合併症等の急性期対応を行う。
- ・地域における需要に対応するため、また、医師教育の視点から、慢性期の維持透析を実施する。

ケ 地域医療支援

- ・地域医療機関との更なる連携推進による紹介率・逆紹介率の向上、救急医療への貢献、高度先進医療機器の共同利用の促進、地域の医療従事者に対する研修・情報の提供、地域住民への啓発活動等に努める。

コ へき地医療

- ・へき地医療拠点病院として、医師を育成するとともに、へき地診療所等へ医師を派遣する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

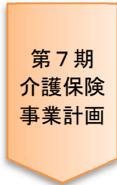
① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成31年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	6	→	6
急性期	228		265
回復期			45
慢性期			
(合計)	234		316

※上記のほかに4床の感染症病床を有する。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2019～2020 年度	○新病院の開院	○新病院の開院・稼働	 
2021～2023 年度	○回復期（リハビリテーション病棟）の稼働	○回復期（リハビリテーション病棟）の稼働	

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、緩和ケア内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科	→	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、緩和ケア内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科
新設		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：89.8%
- ・ 1日当たり入院患者数：247人
- ・ 1日当たり外来患者数：517人
- ・ がんの手術件数：230件／年
- ・ 救急患者受入人数：5,000人／年
- ・ 紹介率：70%
- ・ 逆紹介率65%

経営に関する項目*

- ・ 経常収支比率：94.3%
- ・ 医業収支比率：74.0%
- ・ 入院単価：54,306円
- ・ 外来単価：13,327円
- ・ 給与費比率：72.1%
- ・ 材料費比率：19.9%
- ・ 経費比率：26.8%

【4. その他】

兵庫医科大学ささやま医療センターをはじめとする地域の医療機関との連携を図り、地域住民が安心して丹波圏域で医療を受けられるようにするための拠点としての役割を果たす。